



四
天
王
割
盜
異
錄

前編

四

13
974
4



目録 13
9174
巻 4

源家 四天王剽盜異録卷之四

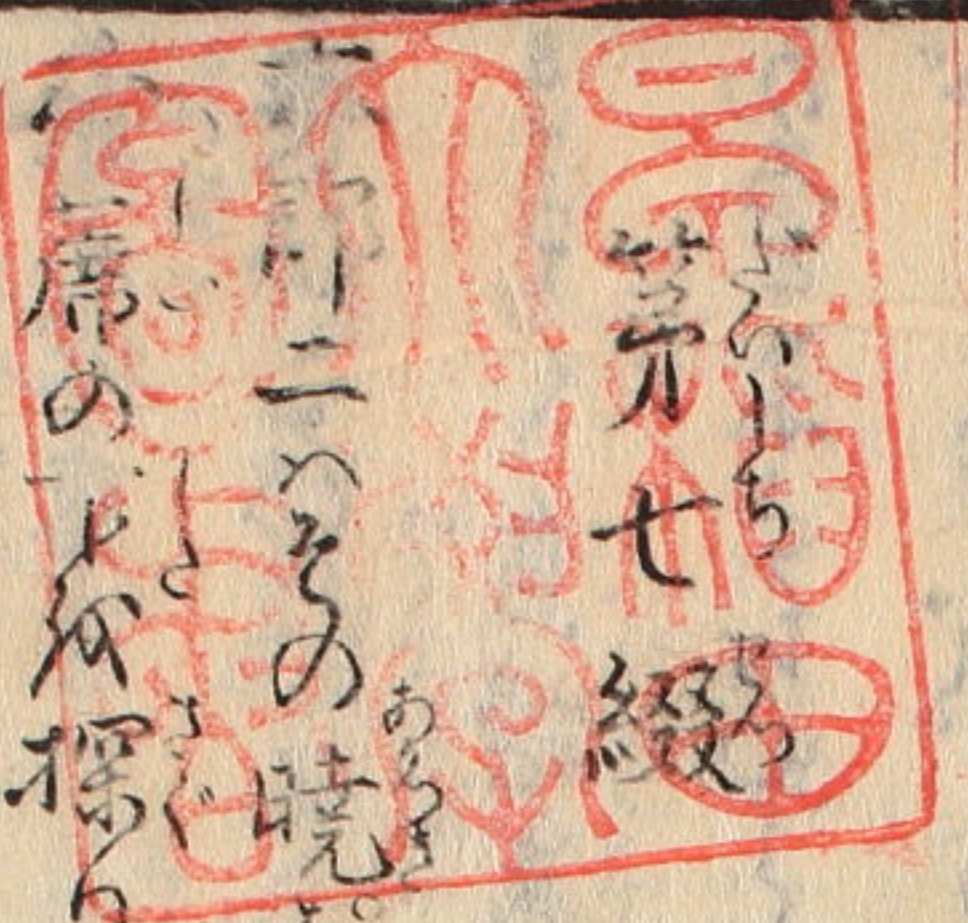
東都

飯台 曲亭主人著

門人 魁蓄癡叟校

關山小六郎二深雪と瘞る談

附 荒太郎不意父の仇と報事



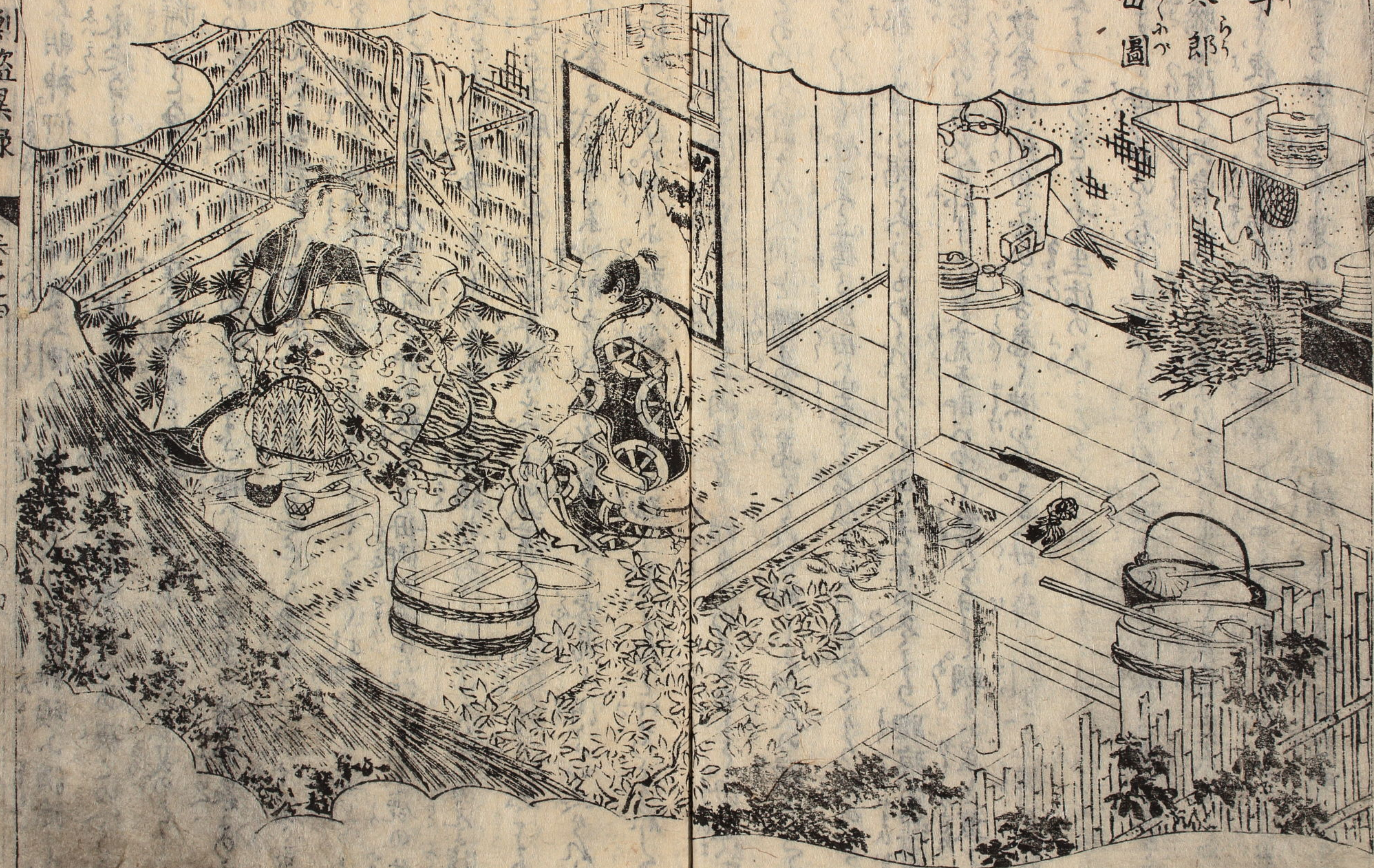
二深雪の家小の... 彼既よ深雪小令... 情り胸... 小夜更... 近... 六郎二今... 道...

剽盜異録

卷之四

らむぐのひと物ぐらりし。その金の失ふれば。女児が盗と申し。此女も
 小奔らるゝ。究まら。そも何とせん。慌まば。徳本も。そのの。わづらひぬ。
 年。は。身が。刀。無。人。と。あ。ひ。時。も。か。さ。め。ら。り。人。は。た。し。く。
 この刀。無。ら。ら。ら。も。懲。ら。ら。だ。今。又。深。雪。も。昔。と。同。く。彼。を。富。す。
 家。小。給。事。さ。ら。ん。と。あ。め。と。總。く。懲。ら。ら。起。り。項。缺。も。ら。ん。女。児。も。
 喪。ひ。ら。ひ。ぬ。追。葛。も。下。り。て。夫。と。責。め。六。郎。二。の。
 焦。燥。夫。婦。言。と。う。ひ。小。時。う。ら。ら。夏。の。夜。も。明。け。は。遂。小。
 の。さ。も。ふ。ら。ら。や。その。往。方。を。索。れ。る。走。り。程。強。し。と。ら。れ。更。小。さ。る。
 づ。も。あ。ら。ぶ。その。次。の。日。長。野。より。深。雪。を。追。と。ん。と。轎。子。に。扛。せ。し。
 人。と。来。し。と。れ。ど。今。ふ。深。雪。が。ゆ。と。れ。様。その。日。の。つ。つ。と。あり。と。て。
 徒。小。近。の。人。と。が。ゆ。ぬ。長。野。の。駅。長。も。ふ。く。これ。が。怪。し。滑。り。の。は。ら。
 する。人。小。尋。く。深。雪。が。家。小。の。さ。ら。ら。ら。得。られ。ば。且。驚。れ。且。怒。り。
 と。く。六。郎。二。と。責。め。彼。百。金。を。と。り。納。め。し。六。郎。二。も。これ。が。ひ。
 と。く。小。辨。る。く。一。日。あ。り。と。脱。し。ぬ。と。駅。長。の。特。に。威。勢。あ。る。り。の。り。自。ら。
 い。ま。う。ら。め。又。せ。つ。ん。と。安。れ。ゆ。り。り。彼。小。近。近。き。山。里。に。匿。居。と。
 り。と。く。只。寝。食。も。少。され。日。毎。小。れ。を。索。め。と。これ。が。徳。本。の。一。と。
 ら。ぬ。わ。ら。ひ。小。く。と。れ。病。の。床。小。ら。り。話。分。兩。頭。と。小。又。橋。平。が。
 一。子。荒。老。部。の。年。や。積。り。て。二。十。六。歳。身。の。長。五。尺。八。寸。あり。と。ら。り。日。弁。
 の。辨。と。揚。怒。く。眼。を。回。と。れ。猛。獸。も。忽。ち。斃。せ。嘆。く。眉。と。舒。く。稚。子。も。
 中。懐。く。加。旃。ひ。り。又。橋。平。が。横。死。し。り。母。小。事。く。孝。女。也。と。て。
 信。明。十。郡。の。うち。更。小。の。類。あり。元。来。家。貧。の。り。ら。れ。ば。昼。は。桂。と。夜。は。
 常。に。緇。ひ。或。は。人。は。傭。せ。と。此。の。錢。と。得。く。や。や。その。目。を。お。く。と。

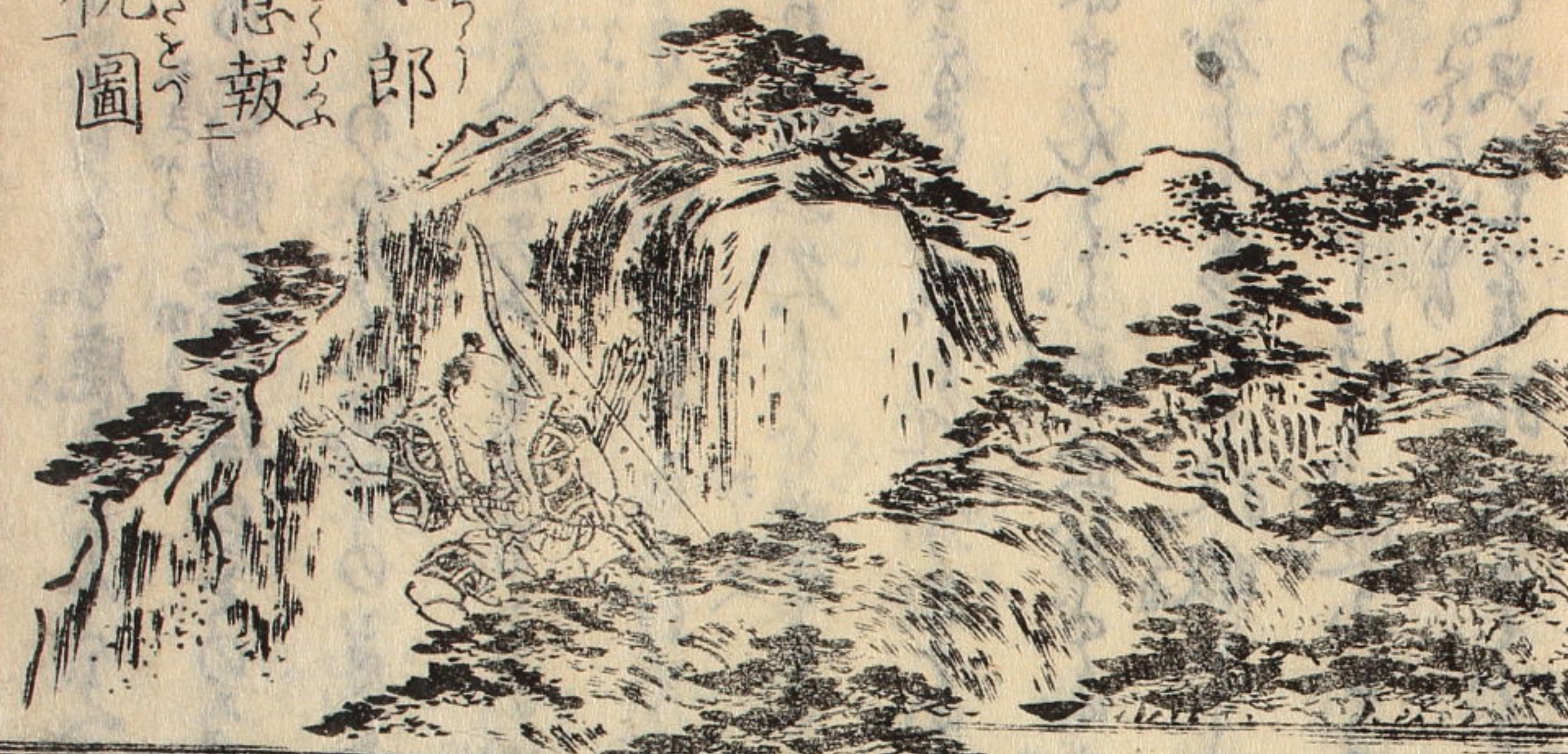
孝子
荒太郎
事母圖



刺盜異録
卷之四

四

あつらひ
甘荒太郎
不意報
父仇圖



刺盗異録

卷之四

刺盗異録

卷之四

六

鴨昏なりとも。鹿とんざりてまじき。今いふ悔ももひを。おま
女子の亡骸。則縁のよのよとなりたるを。彼処の川も索。ゆき
歎れありらんぞ。その身もこれお射しまん。豈あひもるま。これ
過ぐ人あつとも。その罪の逃れ。まど潔く吐うた切らんを。あひ
定め。刀の鞘ふるもさうけても。つらくあひめぐるせ。家お一個の老とれ
母あり。特ふえ。一。塞。これあ。む。て。養ふ者あ。一。命お惜む
あ。う。ま。ま。も。ま。れ。今。さ。ふ。自。お。せ。母。の。性。命。一。日。も。た。り。ら。び。た。た
い。ま。せ。ん。こ。も。母。世。だ。と。ふ。去。れ。後。い。ら。う。う。罪。を。辨。く。泉。下。の。怨。お
ま。ふ。な。し。ま。む。け。れ。暇。を。と。び。ひ。へ。南。無。精。灵。頓。生。菩。提。除。陀。伽。く
とうら念。ト。け。遂。お。その。死。な。ま。り。た。れ。が。こ。も。の。鬱。々。と。こ。し。こ
ま。ま。ど。只。見。る。後。路。お。ま。ま。れ。が。ま。ま。り。遂。お。り。ま。家。あ。ぞ。か。え。り。た。れ。

第八綴

荒太郎一拳小三の旅と撃手談

附 橋平美と頭してその見成救ふ事

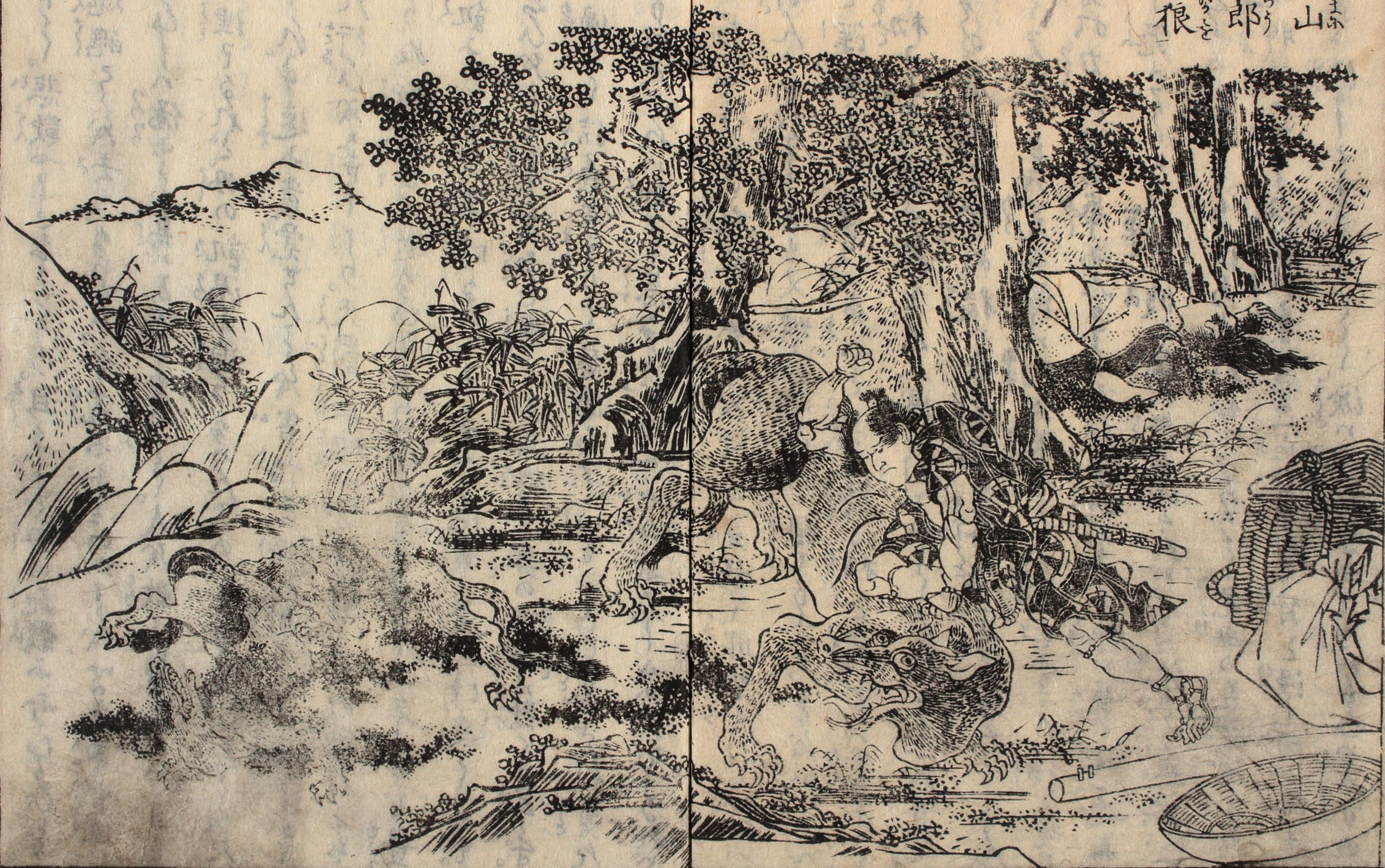
かく。荒太郎。家お立。う。め。ま。ど。母。と。驚。さ。と。あ。ひ。く。ま。の。過。ら
色。あ。も。あ。ま。ま。誠。一。や。う。母。お。告。ぐ。や。あ。れ。が。あ。う。た。友。去。年。より。甲。斐
國。より。り。住。め。れ。が。彼。地。い。ま。ま。山。里。さ。る。富。人。お。ほ。く。世。より。再。使
あ。ま。母。お。持。く。り。れ。よ。う。と。お。あ。は。音。耗。あ。の。懇。言。や。え。ら。り。が。な。お
し。う。ま。も。途。お。の。人。お。あ。ひ。め。幸。ひ。の。伴。な。れ。が。只。官。誘。ひ。と。べ。し。と
い。ふ。推。諱。か。う。と。ま。り。う。め。づ。れ。と。約。せ。り。の。人。今。宵。の。宮。越。お。宿
う。る。れ。が。頃。お。の。救。正。く。跡。より。来。れ。と。い。ひ。く。う。れ。ゆ。れ。彼。処。ま。ま。い
四。里。の。路。を。れ。ど。夏。の。旅。の。昼。より。も。夜。を。涼。や。あ。く。走。ら。う。め。去。未。出
さ。せ。め。負。お。し。ん。と。い。ふ。母。は。これ。を。や。ま。く。は。ま。の。年。より。れ。ど。慮。り。た。れ

ころろと母の石の下ふあふす。その傷め血夥しくこぼれまゝに。
 嘯とけりけり驚きたつ。ころろれば前面の小松の下ふ狼の子二頭あり。
 母の穴に争ひ居たり。荒太郎この光景をんく。ナイドふ少しも
 ころろとふぞれ奮然と走り。刀を振く直二頭の狼を切さす。
 残り一隻これに怖まて逃れをる。やうびこれをも切く。あはれとほ
 つつ。珠をけりけり打太刀のまわり。石ふふと切當まをらるると
 火を。けりけり刀もほりまておきぬ。時ふその形續ふむ。二頭の狼
 茨の蔭より走り出。大に嘯り。荒太郎を驅んと。荒太郎既刀
 を打つ。これに。や。初瓜より伸く。直に撃んと。ころろれば狼を
 ころろひの。や。初瓜閃く。頭の上を躍こえ。後のころろれば。
 つと。初瓜避ま。狼は又前ふ。ころろ。ま。嘯く。漫よ。ころろ。ま。び。の。時

荒太郎あやう。この狼既小数年瓜経く。刃輕く。眼明うれば。怒ふ
 ころろと打んとせむ。ころろと又疲る。ころろと謀り。ころろと殺さん
 りの。ころろと深念。ころろと。忽ち一声や。竹。持。初と突。や。葉の。ころ
 狼へ。この初瓜より。ま。ころろと。と。圖。引。ま。ころろと。ま。奉。瓜。り。て。
 ころろと。ころろの眉間と撃ぬ。狼へ。今。多。力。の。丈夫。が。一。拳。を。眼。く。ころろと。
 少。ころろと。ころろと。荒。を。郎。へ。初。瓜。擲。ま。ころろと。左。の。手。を。右。の。項。を。楚。と
 揃。一。身。の。力。を。右。の。拳。へ。入。ま。ころろと。ま。は。連。打。り。ま。狼。の。長。く。吠。逐。み
 血。を。吐。き。斃。ま。ころろと。この狼は。彼。二。頭。の。母。を。く。ん。が。今。の。仇。も。報。ひ。原
 ころろと。ころろと。忽ち。ころろと。け。め。ま。ころろと。老。母。の。死。骸。を。く。ん
 起。せ。ば。腕。胛。乳。の。下。より。腿。を。食。裂。ま。血。を。ま。り。て。背。を。浸。し。肉。の。傷。ま
 骨。あ。ら。う。浅。く。ころろと。ころろと。涙。の。雨。の。袂。あ。ま。り。ゆ。り。ひ。の方。す。の

川谷集録

野上山
荒太郎
撃三狼
圖



胸ふ迫りし。悲歎やうらやうら。且くして母の死骸ふ打むらひ。母は魂魄を去りたり。今荒木部がより瓜はま。甲斐國へ
 移れしひの儀や。真の志の過り。人教一のま。この言を
 死にせし理るれど。母の飢渴ふ迫りありん。その言をさふ。死にせし
 を死もやれ。速く復覚せん。瓜害怕き。母を詔り。亡命かく
 後ぐり行ひ瓜をせり。天罰立地ふ鼓ひ来り。この歎れあら
 あひゆりぬ。柳父世は逝り。今に至り。十六年。世を豊
 られども。飢ふらり。年暖れども。冬は寒く。母はほく一日も。
 安堵のそふ瓜をせし。玉を磨く。瓜を砕く。身の薄命。歎く小豆。母
 父の生涯過多し。信義を守り。慈悲や。母もさき。芳がれ賢る
 人ふあ。ゆれを。これ却く恙。父母ら。冰命ふ死。天のうらなべ

これ瓜罰せ。罪く瓜父母小尊。その壽と奪ひあひ。天ふ叫び地
 ふ叫ぶ。哀傷あ。思ふ。孝子れ。理る。あり。母の死骸を樹下小填め。上小片の石瓜建。標。回向
 あり。あり。只顧慚愧。絶。ゆり。これ今既人瓜
 殺して逃奔の。母悪獣の口腹小陷。いづ。親瓜
 殺せ。嗚呼何の顔。世の中。小。只速。不
 自教。瓜。謝。嚮。撃。拵。刀。拾。ひ
 袖。刀。小。巻。腹。小。傳。怪。い。の。邪
 両國の陰火。叢の中。燃出。飄。荒。部。は。轉。ひ
 来の。腕。頰。小。癱。麻。惘。然。醉。時。後。方
 小人あり。荒を部。声。荒を部。中。つ。入。れ。ば。

橋平寛魂
告往事於
鬼圖



づれ。東明ひがかりゆゑにころころ。荒を却まはりゆりかへ。亡なく父母の告つげり得えく。
且かつううししとと且かつししりりととびび。逐おふその死しににままりりけけ。只ひ管くわん嘆たん息そくししとと
とととと。嗚呼あ父母ふがはら没なししとともも子こ女にももかかくくもも漂たれれやや。これ
六部ろくぶ二公にこう撃うちちとと父ちちの仇あてを報ひりりてて。りりの告つげりりせせんん。殆たぶぶの
身み成なりりととりり。加そへへ。二代にだいの悪業あくごうをを盡つききとと。更さらにに善因ぜんいん成なりりとと
ととををままりり。これ又何なをを悔くいいととむむりりとと。直ただふふとと起たちちとと山やまを
とととととと。二にとと甲かららるる東ひがににとと走はりりままりりのの地ちにに住すむむ
とと死しととも定さだめめの信濃しんのうと上野じやうのの封疆ほうきやうががれれ。碓氷すいひ巔とう小足せうそくががととええ
權けんくくとと不ふ橋はし居いとと。時ときにに至いたりりととどどままりりままりりままれれ。

四天王剽盜異録卷之四畢

